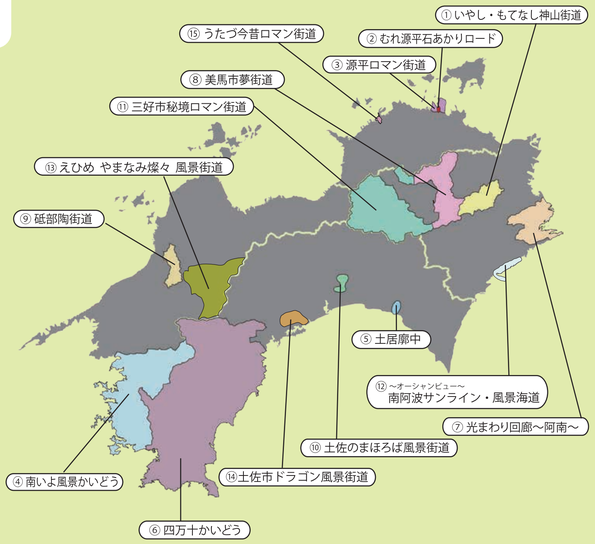
風景街道とは

道は、さまざまな人や物、文化が交流する舞台です。
そして道沿いの地域にはその地域ならではの自然、歴史、文化が息づいており、暮らしがあります。

風景街道は、道と沿道、その周辺を舞台として、
地域住民の皆様・NPO 法人・行政など多様な主体が協力しあい、地域ならではの自然、歴史、文化等の資源を活かして、美しい景観の形成、地域の活性化、観光の振興を図る取組みです。
その結果、かけがえのない日本の原風景や国土文化が維持、再興されることを目指します。

四国の風景街道に是非お越しください。

平成１９年度に風景街道の登録が始まり、全国各地で様々な取組が行われています。
四国では平成27年3月までに１5ルートが登録されています。１5 ルートのそれぞれが個性を活かし、魅力あふれるルートとなっていますので、是非お越しください。



見どころ案内

土居廓中の町並み

武家屋敷

江戸時代の武家屋敷がそのまま残され、趣を今に伝えます。
家には塀重門や武者隠しなどがあり、貴素な中にも格式を感じさせます。

❶ 野村隆男家住宅 [MAP：D-4]

五藤家家臣野村家は、もとは香美郡山北村出身で、五藤家に召し抱えられてからは、五藤家の財政や家臣の人事などの惣役を行っていました。切り妻造り桟瓦葺き木造作り平屋建ての主屋を中心に、門・便所風呂棟・納屋・薪置き場・井戸・塀など江戸末期の武家住宅の形成を残しています。
[時　間] 8：00～17：00
[定 休 日] 年中無休
[連 絡 先] 0887-35-1011（安芸市商工観光水産課）

❷ 五藤家安芸屋敷 [MAP：D-4]

江戸時代の土佐藩家老、五藤家の安芸屋敷。江戸時代は惣役がここにおり、当主は主に高知城南の屋敷にいました。五藤家に残された絵図によると当時は城山の麓一帯に屋敷や蔵、馬小屋などが幾棟も並び広い土居屋敷を構えていましたが、明治になると全て取壊されました。主屋は明治 24 年に建てられたもので、数寄屋風書院の座敷で構成され、その南面には庭園があります。

❸ 寺村家住宅 [MAP：D-4]

もとは五藤家家臣小牧天山の生家。小牧家は尾張小牧（愛知）の出身で、五藤家おかかえの学者となりました。幕末には漢学者小牧天山・米山が出ており、米山のもとには岩崎弥太郎も通ってきたといいます。建物は明治後期から大正にかけて建てられたもので、長屋門・蔵・離れ・かま屋・玉石の練り塀など武家屋敷の構えが残っています。主屋は練造り桟瓦葺き平屋建て。後に医家として使われ、当時の待合室、診療所など医家機能の空間と家人の居住空間の関係がよく理解できます。

❹ 野村典男家住宅 [MAP：D-4]

五藤家家臣野村家の８代目当主・野村茂樹は、明治の初期より陸軍軍籍に身を置き各地で服務し、退役後の明治 40 年頃、この建物を建てました。東京、京都、大阪などの暮らしが長かった当主の感性が活かされ、書院風の主屋・数寄屋風の離れ・庭などに繊細な意匠が取り込まれています。床が高く、軒が低い構造は、高知の近世から近代期における住宅の特長を残しています。

❺ ウバメ樫・土用竹の生垣 [MAP：D-4]

土用竹と呼ばれる細い竹を並べた生垣は、かつて土佐では武家のみ許されたといわれています。夏の暑さ、冬の寒さ、強風を防ぐ役割がありますが、いざという時弓矢に使えるように植えられたようです。武家屋敷と相まって、静かで落ち着いた雰囲気をかもしだしています。
[連 絡 先] 0887-35-1011（安芸市商工観光水産課）

❻ 安芸城跡 [MAP：D-4]

古代から安芸地方を支配してきた安芸氏の居城。延慶元（1308）年、安芸親氏によって築かれたといわれています。安芸氏は、戦国期には土佐七雄の一人に数えられ、「安芸五千貫」を領有する大豪族として、土佐国東部で最大の勢力を誇るようになりましたが、永禄 12（1569）年、土佐統一をめざす長宗我部元親に攻められ、激戦の末に敗れました。今は建物のあった詰や二の段、三の段、土塁などが残ります。
安芸城は、安芸平野のほぼ中央にあり、標高 41m、東西 100m、南北 190m の長楕円形をした平山城の頂上からは、安芸平野や太平洋を一望できます。
[連 絡 先] 0887-35-1011（安芸市商工観光水産課）

❼ 安芸市立歴史民俗資料館 [MAP：D-4]

江戸時代土佐藩の家老であった五藤氏の資料が展示され、代々伝わってきた武具・甲冑をはじめ、美術工芸品、古文書などの貴重な品々が安芸の歴史を物語っています。
[時　間] 9：00～17：00
[定 休 日] 月曜日（祝日の際は開館）
年末年始、資料入替時は随時臨時休館
[連 絡 先] 0887-34-3706（安芸市立歴史民俗資料館）

❽ 安芸市立書道美術館 [MAP：D-4]

昭和 57 年 10 月に開館した全国初の公立書道専門美術館。安芸市は藩政時代より書道が盛んで、現在も日本書壇の第一線の書家を多く輩出。館内には、安芸をはじめ全国の書家の作品を常設展示、書道に関する資料も充実しています。
[時　間] 9：00～17：00
[定 休 日] 月曜日（祝日・振替休日の場合は開館）
年末年始　12/29～1/3
[連 絡 先] 0887-34-1613（安芸市立書道美術館）

他にもたくさん、土居廓中の見どころ

●町並みを流れるせせらぎ
「汲み地」（くみじ）といって屋敷の中に水を引き込む工夫が見られます。生活用水としても今も大切に使われていることを感じます。

●火の見やぐら
隣の消防屯所改築のときに一緒に建てられました。1800 年代に江戸で建てられた町火消しやぐらをモデルにしたようです。土居にやぐらはなかったそうですが、武家屋敷の町並みと一緒に江戸情緒を楽しんでみてはいかがでしょうか。

●町並みを演出する土塀
ウバメ樫・土用竹の生垣の他にも、石積みに玉石や瓦などを使った塀がみられ、素材を活かす丁寧な息遣いが伝わります。

皆様へのメッセージ

古き良き歴史と文化にふれあえる町並みがここにある

「土 居 廓 中」

景観一年、風景百年といわれます。
人の暮らしが風景をつくります。
その土地の風景を大切にして活性化につなげよう。
地域に昔から伝わる、残したいもの、誇りたいもの。
今の暮らしの中で使い、維持しているもの。
これからの暮らしを考えたとき、必要なもの。
地域の歴史を知り、風景の移り変わりを感じ、
これからの風景づくりで大切なことにつなげていきたいと思います。

安芸市土居廓中には戦国時代よりここに城が存在し、後に城山の周囲には伝統的な武家屋敷の町並みが形成され、地域の歴史を今に伝えています。

この土居廓中をコアエリアとして、歴史ある町並みと道空間を活かして、そこに住んでいる人がこれからも地域に愛着を持ち続け、誇りを持って観光客を迎えて、地域が活性化することを目指し、様々な取り組みをおこなっています。

どこか懐かしさを感じ心癒される町並みを散策しながら、先人達の歴史の足跡を訪ねてみませんか。

高知県東部には伝統的な町並みが多く残っています。将来的には、これらの伝統的な町並みを活かして、まちづくり活動をおこなっている各団体とも連携していきたいと考えています。

歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会
事務局：〒784-8501 安芸市矢ノ丸 1-4-40
安芸市建設課内
TEL 0887-35-1014　　FAX 0887-35-4445
E-mail jidoshado@city.aki.lg.jp

土居廓中

歩いて巡る土居廓中と偉人のふるさとの道

「土居廓中」は、安芸市住民と行政からなる「歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会」が活動主体（風景街道パートナーシップ）となって、平成１９年１１月、日本風景街道に登録されました。
これまで、「歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会」では、「歩いて地域の良さを見つけよう」をキーワードとして、新四国のみちを中心に“みちづくり”、“地域づくり”に関する取組を進めてきました。
「土居廓中」では、今も伝統的な武家屋敷の町並みが残る“土居廓中”をコアエリアとして、地域に住む人が地域の良さ・誇りを再確認し、愛着のある地域となること、さらには誇りを持って訪れる人を迎えることを目指し、歩くことを主体とした歴史と文化にふれあえる道の創出・発見に取り組んでいます。その範囲は、国道５５号、県道２１３号線（高台寺川北線：ちくたく通り）を中心とした安芸市内におよびます。

特色

今も残る藩政時代のたたずまい　～土居廓中の町並み～

土居廓中は、土佐藩主山内一豊の入国とともに家老の五藤氏が居を構え、町並みを整備したことに始まります。それまでもこの地では、古代から安芸地方を支配してきた大豪族・安芸氏が代々の居城・安芸城を築くなど、たいへん歴史ある場所です。土居廓中では家臣の役分に応じた屋敷が建ち、土地 300 坪、建物 30 坪が平均で、与力百石高の武士はこれ以上の土地をもらい野菜を作ったそうです。当時の武家屋敷や生け垣などが、時代を経て今なお残り、藩政時代のたたずまいが感じられます。

歴史にのこる安芸出身の人々　～偉人のふるさと～

安芸は、三菱グループの創始者・岩崎弥太郎、童謡歌曲作家・弘田龍太郎、日本の宇宙科学の先覚者・須藤伝次郎、そして地域のシンボル“野良時計”を全て一人で作り上げた畠中源馬など、歴史に名を刻む偉人たちのふるさとです。また、藩政時代より書道が盛んで、現在も日本書壇の第一線の書家を多く輩出しています。

取組

「土居廓中」では、地域ならではの伝統的な町並みと道空間を活かし、愛着のある地域となることを目指して、様々な取組を行っています。
「風景学習プログラム～探そう昔からの風景！～」では、“昔の風景写真”からその場所を探し出して、“昔から残っているもの”“変わったもの”、そして“残していきたいもの”“なぜ変わったのか”などを地元の小学生と考え、風景・景観や地域に対する意識を高めてもらうことを目的として実施しています。

A「風景学習プログラム～探そう昔からの風景！～」実施（安芸市内各地）

B「道路清掃活動」実施（安芸市内各地）

活動主体・・・・	歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会
活動の範囲・・・	安芸市内
中心となる道路・	国道５５号・県道高台寺川北線
登録年月・・・・	平成１９年１１月

安芸の偉人たちにまつわる見どころ

❶ 野良時計 [MAP：D-5]

明治 20 年頃、この地の地主だった畠中源馬の製作。明治の中頃、時計に興味を持った畠中源馬は、10 歳の頃、父に買ってもらったアメリカ製の八角時計に触れ、時計の造り、原理、製作技術を独習し、その仕組みを覚えました。そして分銅も歯車も、全て手作りの時計を一人で仕上げました。以来、120 年にわたって時を刻み続けました。現在は、観光シーズンやイベント時などに所有者のご協力を得て動かしていただいています。
[連 絡 先] 0887-35-1011（安芸市商工観光水産課）

❷ 岩崎弥太郎生家 [MAP：C-3]

三菱グループの創始者・岩崎弥太郎は、天保５年（1834 年）12 月 11 日安芸郡井口村に生まれました。生家は茅葺の家で、家の前にはクスノキなどの大木があります。のんびりと木陰で生家を見ながら弥太郎が生きた時代に思いをはせてみてはいかがでしょう。庭には、少年時代の弥太郎が天下飛雄の夢を託し、日本列島を模して作ったと伝えられている石組みがあります。また、瓦に残る家紋の三階菱は、土佐藩主山内家の家紋（三ツ柏）とともに、現在のスリーダイヤの元とされています。生家西側にそびえる山は妙見山です。弥太郎は 20 歳の頃、江戸への遊学に際し、妙見山に登り、「吾志を得ずんば再びこの山に登らず」と志を立てたといわれています。
[時　間] 8：00～17：00
[定 休 日] 年中無休
[連 絡 先] 0887-35-1011（安芸市商工観光水産課）

生家敷地内のクスノキ

❸ 弘田龍太郎歌碑 [MAP：D-6他]

大正・昭和期の作曲家・弘田龍太郎は、明治 25 年（1892 年）6 月 30 日安芸郡土居村西木戸（現在の安芸市土居）に生まれました。3 歳の時に父の転任により千葉へ。その後、三重の中学校を卒業し、東京音楽学校（現東京芸術大学）に入学。本格的な作曲活動は大正 6（1917）年頃からで、童謡「浜千鳥」「雀の学校」「春よ来い」などの名曲を次々と発表し、童謡・歌曲作家としての地位を確立しました。現在 10 基の歌碑が安芸市内各地に建立されています。
[連 絡 先] 0887-35-1020（安芸市生涯学習課）

靴が鳴る

叱られて

❹ 浄貞寺 [MAP：B-6]

日本の宇宙科学の先覚者・須藤伝次郎。浄貞寺には「天文の始祖」と記された氏の石碑があります。また、浄貞寺は安芸氏の菩提寺です。安芸氏最後の城主となった安芸国虎は、戦国時代に長宗我部との合戦の折、部下の生命と領民の安全を引き換えに、1569 年の夏にこの寺に入って自刃し、古代から続いた安芸氏の統治の歴史に幕を下ろしました。
[連 絡 先] 0887-35-3081（浄貞寺）

まだまだあります他の見どころ

歴史

❶ 内原野公園 [MAP：D-2]

内原野公園は土佐藩家老五藤氏の別邸だったところです。早春より桜やツツジ、フジ、アヤメなどが咲き誇り、四季折々の散策が楽しめます。園内の井天池は土居五藤家五代当主の正範が 1680 年頃にかんがい用に築造。平成 22 年３月には農林水産省による“ため池百選”に選定されました。
[連 絡 先] 0887-35-1011
（安芸市商工観光水産課）

❷ 本町かいわいの町並み [MAP：D-7]

本町には伝統的な町並みの造りが暮らしを守り、落ち着いた風景をつくっています。「土佐漆喰」や「水切り瓦」など伝統技術を今に伝える工法と新たな町のにぎわい。古き良き時代と現代を感じる町歩きがおすすめです。

体験・交流

❶ 内原野焼 [MAP：D-3]

文政 12（1829）頃、内原野に初めて窯が開かれ、徳利、すり鉢などの日用品を中心に焼かれていました。素朴で、重厚な風合いが特徴です。近年は、鉢物や花器などが人気を集めています。気軽に購入・体験できる場として、内原野陶芸館があり、さらに北側には４つの窯元があり、こちらでも見学・体験等できます。（要連絡）
【内野原陶芸館】
[時　間] 9：00～17：00
[定 休 日] 水曜日、年末年始
[連 絡 先] 0887-32-0308（内野原陶芸館）

❷ 安芸広域公園 [MAP：D-3、D-4]

「里のゾーン」では、里山の環境を活かした公園整備が進んでおり、内原野陶芸館を中心に里山の原風景と陶芸を体験することができるエリアになっています。ボランティア団体が月２回いろいろな活動を行っており、初めての人も様々な体験をすることができます。また、「川のゾーン」は、安芸川沿いに整備された広々空間の公園です。夏は川遊びでとても賑わいます。
[連 絡 先] 0887-34-3135
（高知県安芸土木事務所）

川のゾーン

里のゾーン

食

❶ 釜あげちりめん丼

安芸市では釜あげちりめんじゃこの生産が盛んです。海岸沿いではちりめんじゃこを干す風景が見られます。このおいしい釜あげちりめんじゃこを広く普及し、たくさんの人に食べていただこうと、安芸市本町商店街振興組合の女性部が「釜あげちりめん丼」を考案しました。釜あげちりめん丼は安芸市内にどんどん広まっていき、市内飲食店では、それぞれにアレンジしたオリジナルちりめん丼を食べることができます。まっしろいちりめんとまっしろいごはんの相性は抜群。地元ならではの新鮮素材がふんだんに使われた安芸のあったかい自慢の丼です。ぜひ、ご賞味ください。
[連 絡 先] お店情報は、こちらまで。
安芸市ホームページ　観光イベント情報
（https://www.city.aki.kochi.jp/kanko/）
「ちりめんじゃこ」をクリック。

ちりめんじゃこを干す風景

個性豊かなオリジナルちりめん丼

お休みどころ案内

❶ 廓中ふるさと館 [MAP：D-4]

廓中ふるさと館は、土居廓中にあるお食事処。
地元産野菜を使った美味しい料理を提供していて、町並み散策の休憩にぴったりです。
安芸市のご地元グルメ「釜あげちりめん丼」や「かき揚げちりめん丼」のほか、日替わり弁当や水・土・日曜日限定の「元祖ちすかレー」も人気です。
毎週水曜日には、地元野菜を使った出来立てのお惣菜やお寿司などがたくさん並ぶ「水曜市」を開催。
[時　間] 9：00～17：00（食事 11：00～16：00 ラストオーダー 15：30）
[休館日] 月曜日（祝日の場合は営業）

❷ 安芸駅ちばさん市場 [MAP：D-6]

ゆず製品や郷土菓子、地酒や新鮮な野菜や魚、内原野焼や焼きたてのパンなど安芸自慢の品々がここにあります。
[時　間] 7：00～19：30
[定 休 日] 年中無休
[連 絡 先] 0887-35-7500

❸ 元気館 [MAP：C-7]

太平洋を一望できる入浴施設です。疲労回復に効果のあるヘルストン温泉（弱アルカリ ネラル泉）の心地良いお湯です。
[時　間] 15：00～20：00
[定 休 日] 火曜日、年始（1 月 1 日～3 日）
[連 絡 先] 0887-34-1484

アクセス

車

- 高知駅 ― 国道３２号、５５号 約８０分 ― 安芸市
- 高知龍馬空港 ― 国道５５号 約４０分 ― 安芸市
- 南国ＩＣ ― 南国広域農道、国道５５号 約５０分 ― 安芸市

バス

- 高知駅 ― とさでん交通 約９０分 ― 安芸駅

飛行機　JR等

羽田空港より約７５分
伊丹空港より約４０分
福岡空港より約４５分

- 空港連絡バスで 約３５分：高知龍馬空港 ― 高知駅
- JR 土讃線 特急：約１０分 普通：約２５分：高知駅 ― 後免駅
- 土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線 普通 約１０分：後免駅 ― のいち駅
- 普通 約３５分：のいち駅 ― 安芸駅
- タクシーで約１０分：高知龍馬空港 ― 安芸駅

安芸市内の移動は、安芸駅からレンタカーまたはレンタサイクルが便利です。
駅レンタカー（安芸駅）
TEL：0887-34-8800
レンタサイクル（安芸駅ちばさん市場）
TEL：0887-35-7500

お問い合わせ先
四国風景街道協議会事務局　国土交通省 四国地方整備局 道路部地域道路課
〒760－8554 高松市 サンポート３番 33 号　ＴＥＬ：０８７８－５１－８０６１（代表）
http://www.skr.mlit.go.jp/road/shikoku-fukeiall/

令和５年３月発行